

新しい文章力の教室

唐木 元著

単行本：208 ページ

出版：インプレス

価格：1,430 円（税込）

はじめに

筆者の唐木氏はエンターテインメント分野のニュースサイト「ナタリー」を運営しており、音楽やコミック、お笑い映画など、エンターテインメントの最新ニュースを毎日リアルタイムで更新しています。本書を通して読み手を考えた文章について考えてみましょう。

プラモデルのように作文する

仕事や SNS で文章を書く時、「文章が相手に伝わらない」「伝えたいことがうまくまとまらない」あるいは「文章を書くのが遅い」と感じた経験はありませんか？ こういった場合、文章書く前の準備ができてない可能性があります。筆者は説明しています。

プラモデルを作る際に大切なのは「取説」そして「パーツ」…そしてもう一つ大事なものがあります。それは全体イメージが記された「箱絵」です。文章を書く際も同じように考えていきましょう。

具体的に書き始める前に、「そんなことを伝える文章なのか」を定めておく（箱絵）、「何を言うか」をトピック化して並べておく（パーツ）、「どこから」「どこを重点に」組み立てるかを決めておく（取説）

このような作業をする上で整理するために使いたいのが「構造シート」です

テーマと話題を構造シートでまとめる

構造シートとは安定した内容の文章を書き続けるための作業用のテンプレートです。

紙を用意したら、まず上部に線を引き、テーマを書けるスペースを用意します。次に箇条書きで書きたいパーツを並べていきます。並んだパーツを眺めて、スペースに文章のテーマを書き込みます。

書き込んだら、次にどのパーツから書き始めるかの順番を書き込みます。そして紙を変え、改めてテーマを書き込み、順番通りに直します。最後にアピールしたい優先度を項目の右側に ABC のランクで格付けします。

この構造シートを作る上で大事なポイントは最初は手書きで作成することです。ライター業をはじめたナタリーの新社員は2ヶ月で手書きを卒業するそうで、2年が経過すると即座にテーマと骨組みをつかみ取れるようになるということです。どんなにベテランライターでもいきなり書き始めないことに重点を置いているということから文章の作成は準備がとても大切なことを意味しているといえるでしょう。

良い文章の定義

筆者が設定する良い文章とは「おしまいまで通して完読される文章」です。これをラーメンに置き換えて説明しています。

ダメな文章は「食べきれないラーメン」

適切な長さで引き込まれる順番で読み手の需要に則している、そんな文章を目指していきましょう。

本書でのトレーニング方法

本書では書いた後の「読み返して直す」方法や読者の負担を取り除くために内容を「明快にする」具体的なテクニックについて解説されています。そして、文章におけるスピード感について学びつつ「スムーズさ」を学んだ後に本書の目的である「完読」、つまり呼んでもらうための手法解説があります。具体例が全てコラム内の原稿をモチーフにしているので、楽しみながら読むことができます。何度も読み返ししながら文章力の向上に役立てられる一冊です。